独立行政法人国立病院機構

編集：南京都病院広報委員会

南京都病院ニュース

2015 夏号
No.39

National Hospital Organization Minami Kyoto Hospital News

教育研修部を立ち上げました

内科医長　角 謙介

この度、教育研修部が発足し、副委員長を拝命いたしました。

小生、以前より大阪医療センター附属看護学校、京都医療センター附属京都看護助産学校で呼吸器疾患の講義を行なっており、また京都大学医学部の臨床実習学生の指導も担当しておりました。その中で教育研修に携わる業務をさらに勉強したい、もっと深くこの業務に関わりたいという思いを常に抱いていました。このたび当院で教育研修部が新設され、小生がこのお役目をいただいたというのは大変光栄です。

教育研修部は、職員の教育と研修を実施・支援し、プロフェッショナルとしての資質を上げていくことはもちろんですが、職員の勉強に対するモチベーションを上げていくために色々な形でお手伝いをする役割をいただいています。具体的には院内各種教育研修の企画・周知、各種学会等院外発表の支援・補助、呼吸療法認定士等資格取得のサポートなどを行なっています。

進化し、めまぐるしく変わる現代の医療の中で、ほんの少し前の知識がすぐに陳腐化してしまうのは日々感じるところです。自身が進歩を続けなければ、たちまち医療の進歩に取り残されてしまいます。そうならないように日々研鑽し、さらに新しい知識や技術を身に付け、貪欲にステップアップを継続する、その姿勢を職員全員が共有できる職場でありたい。そのためのお力になりたいと教育研修部委員長をはじめ、委員メンバー皆願っています。当院職員の資質向上によって、当院を受診される患者さん、当院と連携していただいている医療機関の方々のお役に立つことができればこれに勝る喜びはありません。

そのために微力を尽くしていく所存です。何卒よろしくお願い致します。

TOPICS 教育研修部を立ち上げました

■ 緩和ケアチームの活動

診療部長　佐藤　敦夫

当院で緩和ケアチームによる回診がスタートし4年目になりました。医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、栄養士、地域連携室などのスタッフが参加し、毎週１回の回診を継続して来ました。昨年からは、精神神経科の医師に相談することも出来るようになりました。解決の難しい事例についてはお近くのホスピス（あそかビハーラ病院）にご相談もしております。

写真は緩和ケアカンファレンスの様子

がん患者さんの痛みを中心に様々な症状の緩和を図るとともに、限られた状況の中で、患者さんの生活の質を改善できる方法をチーム皆で考えています。「気持ちが落ち込んで眠れない。」「この状態で、自宅で過ごすにはどうしたらよいの?」「どんな食事なら食べられるだろうか?」などなど、どんな相談でも患者さんから依頼があれば喜んでうかがう様にしております。また、新人看護師を中心に年4回の緩和ケアに関連した講習も行っています。

「to cure sometimes, to relieve often, to comfort always（時に癒し、しばしば苦痛をやわらげ、常に慰める）」という言葉を忘れずに活動し続けたいと考えております。

■ 呼吸療法セミナーの活動

医療安全管理係長　山川　まち子

写真は研修の様子

平成 25 年 8 月に、「医師だけでなく、様々な職種が呼吸療法に必要な専門知識を学ぶことで、南京都病院の呼吸管理のレベルが向上し、チームとして、安全・安心な医療の提供ができる」という目的で、南京都病院呼吸療法セミナーを開講しました。呼吸器科医師を中心とした講師陣のもとで、34 名の研修生が、呼吸療法認定士の資格取得を目指して学んでいます。このセミナーの卒業生たちが、今後実践の場で活躍できるよう支援を続けていきたいと思っています。

■ 栄養管理室の活動

栄養管理室長　松井 欣也

竹内主任栄養士が講師として、NST（栄養サポートチーム）プロジェクト公開講座を開催しました。

第１・2回　（患者を救える NST とは）
第３・4回　（経腸栄養剤の理解を深めよう）
第5回　　（とろみについて学びましょう）

回を増すごとに参加者も増え続け、第5回目は会場に入りきれないほどとなりました。来年度には、NST として院内認定コースを開講する準備をすすめています。

写真は第1回目（2014.7.4）の様子

西病棟4階の紹介

西病棟4階　看護師長　森下 久美江

西病棟４階は慢性呼吸器疾患を持つ患者さん、慢性小児が入院する病棟です。

慢性呼吸器疾患の患者さんは、発症してからさまざまな経過があり、病状について、息が苦しくなること、今まで出来ていたことが出来なくなること等、いろんな思いの中で生きておられます。入退院を繰り返している患者さんも少なくありません。そんな患者さんそれぞれが、呼吸器疾患を持ちながらも「その人らしい、より良い生活ができるように」他部門と協働しながら、患者さんに合わせた日常生活援助や指導を行っています。また退院後の生活の調整も重要で、すこしでも心身とも楽に生活が出来るように家庭での生活を見据えた看護を行っています。また外来受診時の継続看護も大切です。病棟と外来が連携し、在宅酸素療法を導入した患者さんの観察・指導を行い、生活が安心して継続できる、生活の質が向上するように関わっています。

慢性小児の子どもたちは親元を離れて入院しています。病棟から京都府立城陽支援学校に通学し、規則正しい生活の習得や、集団生活の中から自立心や協調性を養っています。入院当初は大変だなと思う子どもでも、医師、看護師、リハビリ、心理療法士、学校の先生達との関わりの中で少しずつですが良い方に変化してきます。どの子どもたちも一人一人良い所をたくさん持っています。子供たちにとって最も大切な成長発達を支え、多くの関係機関や保護者と連携、協力しながら看護を行っています。

地域医療に力を傾けておられるみなさまをご紹介いたします

患者様と共に歩む医院をめざして

ほりうち医院　内科・小児科・リウマチ科

院長 堀内 房成 先生

■ 京都府城陽市市辺柿木原52-1
■ TEL 0774-56-5330
■ FAX 0774-56-5354

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	×
午後 5:00～8:00	○	○	○	×	○	×	×

■ 休診日　日･祝、木･土の午後

当院は、南京都病院さんからは車で5分ほどの城陽市山城青谷駅近くに開業をして16年目の診療所です。城陽市青谷は私が生まれ育ったところです。内科、小児科、リウマチ科を標榜しておりますが、かかりつけ医として乳幼児から高齢者まで、家族全員がなんでも気軽に相談できる家庭医を目指してきました。必要なときは迅速に病院や専門科の先生を紹介できるように心がけており、特に南京都病院さんには大変お世話になっております。また複数の病院と連携して、癌･神経難病などの患者さんの在宅診療を行っており、多くの方が住みなれた自宅でご家族と一緒に療養されています。在宅緩和ケアが進歩した最近では、当医院でも年間、60人ほどの患者さんがご自宅で亡くなるまですごされています。さらにリウマチ、膠原病の専門的な診療も行っており、多くの患者さんが生物学的製剤などの治療を受けておられます。小児科診療はひろみ医師が中心になって行っており、できるかぎり丁寧な診療を心がけております。

地域の皆様が安心して医療が受けられるのは、南京都病院さんをはじめとして近隣の病院との連携が大変重要だと考えております。今後も地域の皆様や、医療、介護のスタッフの方々に信頼される診療所であるよう精進してまいりたいと思います。

思いやりの心を大切に在宅生活のお手伝いをいたします

訪問看護ステーション あじさい　訪問看護

■ 木津川市加茂町駅東四丁目1番地3
（JR加茂駅前）
■ TEL 0774-76-0234
■ FAX 0774-76-7802
■ 営業日･営業時間
月～金　午前8：30～午後5：00
※ 24時間の緊急対応可能

当ステーションは地域で唯一の高齢者総合福祉施設であり、加茂町高齢者福祉センター（特養、短期入所･通所介護･居宅介護支援･訪問介護･ケアハウス）の一つの事業所として、平成14年8月に木津川市加茂町に開設しました。

ステーション名の由来は町の花”あじさい”から名づけられました。看護師5名、作業療法士1名の6名の職員で訪問しております。加茂町は奈良時代の一時期、都（恭仁京）が置かれたという歴史があり、加茂町周辺は名所旧跡が多く、山間地域では旧家も多く長閑な佇まいです。地域の高齢化は進み老々世帯も多く、不便を感じながらも住み慣れた家を愛おしみ、在宅での生活を望まれる方が多くおられる中、思わぬ病に苦しまれている方や病院受診にも苦労されている方など不安を抱えて暮らしておられる方々がいらっしゃいます。そのような地域での生活を理解し、身近な存在でありたいと望みます。人々の思いを大切に受け止め、少しでも在宅生活の支えとなり、皆様のお役に立つことができればと思っています。また、寂しいことですが、人生の最後を迎えるときが何れは訪れます。家が良いと望まれる方は多く、その時をどのように過ごし、いかに迎えるのかを共に考え、その人らしく最期が迎えられるように援助を行ないたいと考えています。

人を思いやる心は人を助ける第一歩であると考えており、尊敬と思いやりの心を大切にこれからも努力してまいります。今後ともよろしくお願い致します。

診療科のご案内

循環器科のご案内　循環器科　佐山 晴美

【診　察　日】 火曜・金曜　【診察時間】午前
【対 象 疾 患】 心臓弁膜症（逆流や狭窄 etc）、心筋症（心臓肥大 etc）、不整脈（脈の乱れ etc）、心不全、高血圧、虚血性心疾患（狭心症 etc）、大動脈瘤、他
【可能な検査】 心電図、心臓超音波（心臓の動き、弁の観察）、頸動脈超音波（血管の観察）、ホルター心電図（24 時間心電図）、ABPM（24 時間血圧計）
【ご　挨　拶】

こんにちは。循環器外来担当の佐山です。専門は『心不全』です。大学院では ANP、BNP（心不全マーカー）と心臓超音波の関連を研究しておりました。心臓のポンプ機能低下による易疲労感や、血液うっ滞による浮腫、呼吸困難などが、よくある心不全の症状です。原因を調べ、治療できるものもありますので、「歳のせいかなあ～」の前に、まずは循環器科にご相談ください。また当院特有なものとして、肺疾患に伴う 2 次性肺高血圧、肺性心も多く、主治医の先生方と共同で診療に当たらせていただいております。

循環器の診断・治療の技術革新は目覚ましいものがあります。より専門性の高い検査・治療が必要な場合は、専門の医療機関に、ご紹介させていただいておりますので、ご安心ください。

整形外科のご案内　整形外科　白数 健太郎

【診　察　日】 水曜　【診察時間】午前
【対 象 疾 患】 変形性関節症、頸椎・腰椎椎間板、腰部脊椎管狭窄症、骨粗鬆症、骨折など
【ご　挨　拶】

～変形性膝関節症について～

「膝の水を抜くと癖になる」「何もしていないのに膝が腫れて痛み出した」という患者さんが来られます。「膝に水がたまっているから抜いたほうがいいですよ」というと。「抜いたら癖になるんでしょ」と返事されることがあります。これは水を抜くとともに、水がたまる原因となっている炎症を抑えるための治療を行うことが必要になります。炎症が治らないと、また水がたまるということになってしまいますので何回か水がたまるという人はおられますが、原因が無いのに水がたまって癖になるということはありません。この迷信の浸透力には驚かされます。そしてこの場合の水がたまる（関節水腫）の原因として最も多いのが、変形性膝関節症といって、いわゆる軟骨のすり減った状態です。最初は立ち上がる時や歩きはじめに膝が痛むというので気付かれる方が多いです。その後、階段昇降や歩行時の膝の痛みが出てきて、進行すると膝をしっかり伸ばすことが出来ず、歩行も困難になります。治療としては大腿の筋力強化、可動域訓練、温熱療法等のリハビリテーション、サポーター等の装具装着、湿布や痛み止めなどを使います。また、ヒアルロン酸などの関節内注射も有効です。それでも改善しない場合には手術をすることもあります。手術するしかない状態になる前に適切な治療を受けてください。

皮膚科のご案内　皮膚科　藤澤　章弘

【診　察　日】 火曜　【診察時間】午前
【対 象 疾 患】 アトピー性皮膚炎、湿疹、蕁麻疹、尋常性疣贅（ウイルス性いぼ）、伝染性軟属腫（みずいぼ）、にきび、白癬（水虫）など
【ご　挨　拶】

当院皮膚科は週 1 回、京都大学より皮膚科医を派遣し、診療にあたっております。週 1 回と限られた条件ではありますが、アトピー性皮膚炎や白癬、尋常性疣贅などの一般的な皮膚疾患から、薬疹、乾癬などにも幅広く対応しております。また、紫外線療法などの特別な機器を要する疾患や紅皮症、悪性腫瘍などより高度な精査、治療が必要な疾患に対しては、京大病院や近隣の基幹病院と連携し、患者さんがより専門性の高い、よい治療が受けられるような体制を提案することを心がけております。皮膚科領域の治療技術は日進月歩であり、各分野で新しい薬剤が登場しています。できるだけ最先端の知識をもって患者さんの治療にあたることを目指しておりますので、皮膚のことで困っていること、気になっている症状などありましたら、ご気軽にご相談ください。

『健康フェア』を開催しました

5月30日（土）に地域の皆さまに自己の健康に関心を持ち、健康管理に役立てていただくことを目的にアルプラザ城陽店で『健康フェア』を開催しました。

当日は看護、介護、栄養相談などの各種健康相談や血圧、呼吸機能、骨密度、血管年齢などの測定を行いました。各コーナーで延べ 1,000 人を超えるご来場をいただきありがとうございました。朝10時からの開始早々行列が出来るほど大変盛況でした。

次回は秋に開催を計画しております。今後とも、地域に開かれた病院として、地域の皆さまの健康管理に少しでもお役に立てるよう続けていければと考えております。

健康フェアスタッフ一同

交通のご案内

- 近鉄京都線　新田辺から　京阪宇治バス約15 分
- JR 学研都市線　京田辺から
- JR 奈良線　山城青谷から　徒歩 20 分

＊…各駅より送迎車あり

診療科のご案内

- 呼吸器科
- 内科
- 呼吸器外科
- 皮膚科
- 麻酔科（入院患者のみ対象）
- 神経内科
- 外科
- 循環器科
- リハビリテーション科
- 歯科（入院患者のみ対象）
- 小児科
- 消化器科
- 整形外科
- 放射線科
- 耳鼻いんこう科（休診中）

独立行政法人国立病院機構
南京都病院
（当院は在宅療養あんしん病院に登録しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください）
〒610-0113　城陽市中芦原 11 番地
TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765
URL　http://mkyoto-hosp.jp/

地域医療連携室
- ダイヤルイン　0774-52-0114（内線 231）
- 直通 FAX　0774-58-0270
- E-mail　renkei@mkyoto.hosp.go.jp